

第1弾 オプションツアー [長屋門公園] に自主企画運営の極意をみる

ツアー当日は
若手落語家の会
長屋門寄席
も同時開催です！

長屋門公園は、公共施設でありながら細々とした規則を定めず、来園者のモラルを育てるような形で運営されています。また、利用者の片寄りが生じないように子供から働き盛りの大人、高齢者までを対象にした、様々な立場の人が足を運べる行事企画が毎月、毎週目白押しです。「地元住民事務局長」「参加者の自主性」「ボランティア協力」が揃ったまさに住民の手による住民のための施設運営が行われています。

- 日時 平成16年8月14日(土)
- 集合 長屋門公園集合
- 参加費 ¥500
- スケジュール
- 16:00 公園集合。お茶とお菓子をいただきながら、長屋門公園の事務局長の清水さんにあれこれ伺います。園内散策も。
- 17:30 長屋門公園名物の「梅ジュース」と「すいとん」(?)をいただきながら、ボランティアさんと懇談
- 18:30 [長屋門寄席]の準備をお手伝いします。
- 19:00 [長屋門寄席]の観賞(希望者で)寄席以降、流れ解散の予定です。



■自主企画ニュースを伝える毎月発行の長屋門公園だより vol. 40

参加の蚊帳の野菜の田舎お体験

お茶とお菓子をいただきながら、長屋門公園の事務局長の清水さんにあれこれ伺います。園内散策も。

申込方法! 先着(抽選)!

- 参加費(個別)
- 参加者名
- 学校名・学年
- 住所(郵便番号)
- 電話番号(携帯・自宅)
- 7月13日迄

申込先: 長屋門公園 364-7072 TEL

とびくす

アサギよ早く来いね

長屋門公園の夏祭りに合わせて、長屋門公園の夏祭り、アサギよ早く来いね、というイベントが開催されます。アサギよ早く来いね、というイベントは、アサギよ早く来いね、というイベントです。アサギよ早く来いね、というイベントは、アサギよ早く来いね、というイベントです。

はま農楽

農楽

長屋門公園の夏祭りに合わせて、はま農楽、というイベントが開催されます。はま農楽、というイベントは、はま農楽、というイベントです。はま農楽、というイベントは、はま農楽、というイベントです。

七夕かざり

7/16

七夕かざり、というイベントが開催されます。七夕かざり、というイベントは、七夕かざり、というイベントです。七夕かざり、というイベントは、七夕かざり、というイベントです。

横柄長屋門公園体験館の 利用案内

＝利用条件＝

- 見学 開園時間内の施設内でも自由に見学ができます。
団体見学の場合は予約事務局までお申し付け下さい。
見学に際しては次のことをお守り下さい。
1. 施設内は全て禁煙です。(管理上火災対策のため)
 2. 飲食・飲酒はできません。
 3. 持ち込みは一切お持ち帰り下さい。
 4. 施設内の事故(火災や盗難)については一切責任を負いません。皆様で十分ご注意ください。
 5. 駐車場はありません。車の乗降はご遠慮下さい。
- ※ また、前記の利用活用内容により施設を利用できません。利用団体は利用条件予約内容等について随時お問い合わせ下さい。

所在地 瀬谷区阿久和東1-17

電話 045(364)7072

開園時間 原則11時～17時(午後5時～7時)

休館日 毎月第2金曜日(但し祝日は開園)
年末年始(12/29～1/3)



どんと焼き

母屋南立面図



母屋・・・安西家の建物は、元横浜市南区和泉町2937番に屋敷を構える安西家の主屋であったが、平成2年横浜市に寄贈された。

市継ぎ草では当長屋門公園に移築すべく調査・解体工事を進め、翌平成3年6月復元修理工事に着手し平成4年6月竣工した。

安西家は位階によると元禄8年(1695)から続いており、現存主で13代を数え、天保期には和泉村の名主を勤めていたことが当家に所蔵される「相模国村政録」によって明らかである。

当主屋はもと西向きに建てられていたが、木工事は南向きとした。

相取は解体時西向きであったが、転倒によって出隅原とし、巾一間の押板と大梁のイロリも復元した。

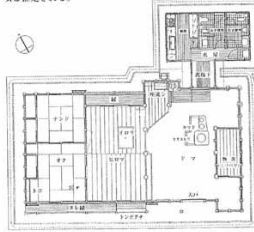
転倒には、使用されなかった柱や喰い違いのあるものも多量見られた。

これは当主屋が安西家の主屋として和泉村に建てられる以前の前身の時代があったことを示すが、伝承によっても元になった所は明らかではない。

建築年代を明らかにする史料は未だ発見されていないが、間取りや構造の特徴からは江戸時代中期(18世紀初)のものと思われる。

解体時に大黒柱通りの上中に開かれたトッカーが復元され、このトッカーの裏側が天保年間まで遡ることが、安西家の主屋として和泉村に建てられた時期は天保年間頃に断定される。

母屋平面図



自然のしくみを大切にしながら営まれてきた農村生活の魅力を再生しています。湧水と流れ、杉林、そして茅葺きの民家や長屋門が、瀬谷・阿久和の風土を今に伝えます。
広さは、3.5ha。



自然観察林

斜面に残る樹林には40種類以上の野鳥がやってきました。虫や鳥たちの住みかとして樹林は、雨水をため洪水を軽減する役割も果たしています。

雑木広場

クヌギやコナラなどの雑木は、かつては薪や炭の材料として利用していました。ドングリもたくさん見つかります。秋には葉も色づく雑木林の中に静かな遊び場を作りました。

散策路

下立の中をゆっくりと散策できる園路が続きます。

せせらぎの水辺

雨水が地下にしみ込んで、谷に集まり湧き出した自然の水がせせらぎを作っています。かつては水田や園楽に利用されていました。

長屋門と民家

自然の素材と人の手技による伝統的木工法で建てられた古民家、長屋門、土蔵。素材の特徴を生かし、暮らしの工夫が込められた建物は生きた歴史です。



文庫蔵 西立面図

文庫蔵

築年代は明治後期と思われる。現存している建物は副都で住むがゆでられており、薪火を余分で支えられ焼酎にも乾草を持つ。内部の太い梁や欄干など「東家住宅」が強く、地主の財力を示すと共に転輸された物の大層さを物語っている。欄干も別荘に特徴的で仕上げられている可能性があるが、関東大震災による被害が大きく、建物は損傷、壁は崩れ落ち残っていないため、断定はしかならない。

用途は衣箱、付帯と家財の収納に用いられていたようである。

長屋門・穀蔵 南立面図



長屋門・穀蔵

附屋は、正面から見ると右側に大きな開口部を持つ居住部分、左側には納屋土間、さらに土蔵が狭くという珍しい形式となっている。

長屋門の建築年代は明治17年と推定され、復元は長屋門より以前に建てられたと思われる。

門の右側部分は隠居所として使われたり、養蚕に利用されるなど、現代の用途を担ってきた。養蚕は隠居所として利用され外壁が白く塗られていたが、その後再び養蚕に戻され木工事に至っている。穀蔵は、その名の示す通り穀物の保存、農具の収納に用いられたようだった。

歴史体験ゾーン配置図

